

真田

真田で楽しく！元気に！暮らしたい人のためのフリーペーパー
い き い き ♪

活き活き ふるさと通信

第39号 2014年 6月 1日発行【真田地域に全戸配布】



5月11日(日) 真田地域の分館対抗の体育祭が開催されました。快晴の運動会日和に多くの真田地域の方々が参加されました。子供からお年寄りまで、熱く楽しく競技に汗を流して笑った一日でした。皆様おつかれさまでした。



かり丸くん

真田グッズ
かり
真田雁丸屋

詳しくは
かり丸くん 又は **さくらゆき**

で **検索** (Tel.0268-23-7313)



2016 年大河ドラマ「真田丸」決定おめでとう!!

第 10 回 真田三代の活躍

常田 軍三

二、幸隆の活躍

⑤ 続 武田信玄の信濃攻略

武田信玄の信濃侵略は、天文 11 年（西暦 1542）9 月諏訪氏の諏訪桑原城攻めが最初とされています。以下年譜を追ってみますと同年 9 月伊那の高遠城を攻め、同城を奪い、伊那谷の侵略を開始しました。開けて天文 12 年（西暦 1543）には、小県に目を転じて、9 月大井貞隆の拠る長窪城を攻め、貞隆を捉えています。そして、天文 13 年（西暦 1544）伊那郡箕輪福与城や荒神山^{こうじんやまじょう}城の藤沢頼親^{よりちか}を攻めています。さらに天文 14 年（西暦 1545）取って返し再び高遠城を攻め落としました。これで天竜川南下作戦は終わって、信玄は東信濃に目を向けました。まさに破竹の勢いでした。

真田幸隆が武田信玄の家来になったのはこの頃ではないかと推定されています。幸隆は山本勘助と共に、武田信玄に従い、同じ信濃とはいうものの、遠く離れた天竜川沿いの地方での戦歴の日々は、武田軍の厳しい軍律もあって、侘しい^{わびしい}辛い日々でした。早く東信濃や北信濃に転進し、戦功に結びつく戦いぶりをしたいものと考えていました。

伊那高遠城の桜が咲く頃、伊那地方攻略作戦の軍議が開かれ、佐久諸城攻略の軍令が、信玄公から発せられました。特に幸隆に対しては、信州先方衆として、武田軍の先頭に立って武勇を示すよう求められました。攻略の主たる目標は内山城・志賀城・前山城・岩尾城等の名をあげ、即刻奪取すべしとの命令が発せられました。

幸隆は地元に近い佐久の戦いにおいて、※勲^{いさお}をあげ、ふるさと帰還の基礎を築きたいものと思いました。佐久地方が武田の支配下となれば東信濃一帯に影響力のある坂城の村上の勢力は衰退し、真田氏の家運の復活もまた確実になるに違いないと覚悟をきめました。（次号に続く）

※勲とは、手柄・功績

❧ 渋沢温泉 ❧ 天然温泉・源泉かけ流し

体のとても温まる温泉です 是非 1 度お越しください
上田市真田町長 1317-6
☎ 0268-72-3224
定休日 水曜日

手作りの美味しさとよろこびを体験してみませんか？
パン、ケーキ、和菓子、イタリア家庭料理
体験レッスン実施中
(詳細はお問い合わせください)

恵美子クッキングスタジオ

<http://emikocookingstudio.jp/>
本原小より 550m 車で 2 分 電話：72-2488



真田町の社長さん 第13回

ペイント矢島 矢島 哲男 さん

今回ご紹介するのは、つくしにお住まいの「ペイント矢島」の矢島哲男さんです。日当たりのよい居間で、奥様の喜美子さん、愛犬のピー君と一緒にお話しを伺いました。ペットは他に猫2匹。1匹はこたつの中に、もう1匹は「どこかにいる」とか。

矢島さんは最初、お兄様の創められた「矢島塗装」にお勤めでしたが、20数年前に「独立を勧められて」独立されました。「結婚した時はずっと勤め人であるって言ったのにねえ」

と奥様が言う「俺だってそのつもりでいたさ」と当時を振り返っていました。独立してしばらくは仕事が少なく大変だったようです。今は東京で看護師をしておられる2人の娘さんも、当時は小学生くらいで、生活に不安もあったそうです。

「でも、いろんな人に声をかけてもらったり、紹介してもらって、だんだん仕事が増えてきたね。たくさんの人に助けられた。そんなに苦労と思わなかった」そして今ではとても忙しい日々を送っています。増税前の駆け込み需要も大変なもので、下請けに何件も回しても手が足りないくらい多忙だったそうです。

喜美子さんも15年ほど前に、きのこ工場の仕事を辞めてから、哲男さんを手伝うようになり、今では2人3脚で一緒に現場へ行きます。危険なこともあるそうで、火の見櫓の塗装の時は、哲男さんが外側を、喜美子さんが内側を担当する役割分担。「怖かったなあ」と喜美子さん。「屋根の雪を払いながらとか、命懸けのこともあるね。でも、一度も怪我したことはない」と話す哲男さんの顔からは、自信と頼もしさが感じられました。

仕事が終わるとよく2人で外食に行きます。「俺は飲み、奥さんは食べて帰る。そこでもいろんな人に会うし、仲間もできる。」と人とのつながりをとても大切にされています。無尽には3つ入っていて（以前は5つ入っていた！）各方面に広く太い人脈がたくさんあります。趣味はゴルフ（1月1日から行くほど好きですと！）の他にスキーのインストラクターの資格を持ち、スキー学校から指導の依頼も多数あり、1年中仕事と趣味で活躍されています。

穏やかな中にも力強く話す哲男さん、その傍で終始笑顔で答えてくださる奥様。明るく暖かな部屋の中で、気持ちも和み、つい長居してしまいました。

次回は「たくさんいて迷った」中から紹介していただいた、「横沢化学㈱」代表の春原健二さんです。どうぞお楽しみに！（小市）



高齢者の介護予防事業における各種教室のご案内

介護予防が必要な方の教室

この教室は、皆様の基本チェックリストの結果から、特に介護予防が必要と判断された皆さまの介護予防のための教室です。

対象となった皆さまは、地域包括支援センターや市から、電話や訪問により教室のご紹介をいたしますのでご参加をお願いいたします。

【運動機能向上教室】（上田市介護予防教室）

対象者：運動機能の向上が必要な方

回 数：週 1 回

利用料：1 回 4 5 0 円

時 間：2 時間程度

内 容：ストレッチ、マシントレーニング、
など（この教室は送迎があります）



〔身体らくらく運動教室〕（真田地域の教室）

この運動は身体の歪みやコリをとって、日頃の歪みをつくる姿勢を治し、足腰の具合を改善できる操体法等の体操です。この体操を自分で身に付け、いつも体調の整った身体づくりに努めましょう。

月	日	曜日	月	日	曜日
4 月			10 月	1 5 日	水
5 月	2 1 日	水	11 月	1 9 日	水
6 月	1 8 日	水	12 月	1 7 日	水
7 月	1 6 日	水	1 月	2 1 日	水
8 月	2 0 日	水	2 月	1 8 日	水
9 月	1 7 日	水	3 月	1 8 日	水

時間	午前 1 0 時 ～ 1 2 時
会場	社会福祉総合センター 2 階大会議室
持ち物	・ 筆記用具（赤い色鉛筆）ノート ・ レジャーシート（1～2 畳）or 大きいバスタオル or ヨガマット ・ 参加費 2 0 0 円 運動の出来る服装 ・ 水分補給のための飲み物 運動靴で

運動教室の申し込みは

真田地域包括支援センター

（上田市社会福祉協議会 真田地区センター内）

電話 72-8055 有線 2080

真田地域包括支援センターは、
高齢者の生活を支える総合相談窓口です。
いつでも気軽にご相談ください。
高齢者の介護予防事業に積極的に取り組んで参ります。

人生を変えたシベリア抑留悪夢の4年間

傍陽中組自治会 柳沢 邦男

大正から昭和初期生まれの皆様は、誰もが戦争経験をされて居ります。

今回はそうした皆様の中の御一人、傍陽中組自治会在住の橋詰誠太郎様をご紹介します。



これからの文章は、橋詰様にお聞きいたしましたお話を書かせて頂きました。橋詰誠太郎様は、現在95歳。昭和20年8月15日の終戦を中国牡丹江^{ぼたんこう}で迎えました。其の時26歳、しかも日本へ帰れる日も近いと思いました。その後、日本へ帰る為、奉天^{ほうてん}の近くのショウトという町[此处は日露戦争の終戦記念碑がある]へ移り^{ここ}から満州鉄道に乗りショウトを後にしました。当時満州開拓団として大勢の日本人が

満州に居りましたが、終戦と共に中国を脱出する為、すし詰め状態の貨車に乗り、移動が始まりました。其の時はロシア経由で日本へ帰れるものと誰もが思ったそうです。しかし汽車がロシア領内に入りロシアの文字が目に入るようになったその時、戦友にロシア語が解る者がいて大騒ぎになりました。それもそのはず、汽車が向かっているのはオホーツク海沿岸方面では無かったからです。「いったい何処へ連れて行かれるのだろう？」皆に不安と失望が走り着いたら銃殺されるとの話まで出ました。しかし、思い起こしてみると兵隊以外の皆さんがどうなったか定かではない。ショウトを出てから3か月、ようやく汽車を降りました。でもそこはまさしくマイナス40度にもなる極寒の地シベリアだったのです。其の時すでに11月。そこから悪夢の4年間の抑留生活が始まったわけです。汽車を下された私達は、捕虜収容所に入れられました。収容所は土を掘り、天井は土を盛り上げた状態、言わば地下むろの様な作りだった記憶があります。又当然の事です。電機は無く、所内はろうそくの様な物が少々ある程度で真っ暗状態ですが、現地は石炭が豊富なので暖房だけは結構効いていました。捕虜ですので当然の事ながら強制労働をさせられました。主な仕事は路線敷設^{ふせつ}工事、道路作り、木の伐採、ロシア人の家づくり等ですが、すべてロシア軍兵士の監視付でした。しかもノルマが有り、予定作業が終わらないと帰れなく、9時を過ぎる時もしばしばありました。そんな過酷な労働をさせられても食事はとても粗末で、しかも少量しか口にできなかったのです。たとえば、皮の剥いて無いあわ、きび、まめ等の雑穀をどろどろ状態にしたもの。

調味料は無く岩塩のみ、入れ物は缶詰の小さな空き缶一杯だけで、とても空腹を満たすものではありません。ですから夜中にキャベツを盗みに行く人もいた有様でした。このように悲惨な食生活ですので、栄養失調や病気で死亡者が続出し、何万人もいた仲間が三分の一位まで減りました。

毎日のように仲間たちの手で遺体が運び出され、氷^{いて}ついた土を火を焚いて温め、約20センチ位しか掘れ

ない穴に埋葬し、土を盛り上げて十字架を立てたそうです。ほとんど毎日ですので十字架でいっぱいになったそうです。

物を食べれば当然の事で生理現象が起きます。トイレは穴を掘り、板を渡した簡単なもので、困らしいものはあるがほとんど無いに等しい状態。しかも排出物は凍り付いてしまう為、鉄の棒で碎き、当番が近く
の湖に捨てに行きました。そして現地には、日本のお風呂の様な物はなく、長い間体を洗っていない為、衣服にシラミが鈴なりになるほど不潔な状態になりました。ですから、着ているものを洗いたいのですが、現地には気の利いたものはなく、衣服を蒸すだけでした。しかも風呂とはいっても日本のものとは程遠く、レンガを焼きそこに水をかけ、出た湯気で体を洗う程度でした。さらに、その時使えるお湯は桶一杯だけ。とてもひどいものでした。

けれどもそんな悲惨な抑留生活・・・いわゆる魔の4年間を過ごされた橋詰誠太郎様がついに辛かった抑留生活に終止符を打ち、昭和25年8月15日、夢にまで見た祖国日本、そしてわが故郷傍陽の地に無事帰還されました。私（柳澤）はその時未だ2歳でした。当時傍陽郵便局が現在のJ A 傍陽店の一番口元に有



共同通信社 資料より

り、そこへ大勢の皆さんがお迎えに行きました。私も母に連れられお迎えに行ったのを今でもはっきりと記憶に残っております。

お話が終わり、橋詰様は最後に、「こんな悲惨な経験は自分らだけで沢山だ。そして二度と戦争はしてはいけないし、戦争は絶対反対だ!!・・・」誰もがそう思い心から平和を願う気持ちは皆同じではないでしょうか。

編集後記

- 矢島様、お忙しい中、快く質問に応じてくださりありがとうございました。奥様、美味しいコーヒーごちそうさまでした。（小市）
- 橋詰誠太郎様、貴重なお話をありがとうございました。（五十嵐）

発行元：「真田 生き生きふるさと通信」広報委員会 事務局：高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ内
〒386-2201 上田市真田町長 7141-1 有線 2111

TEL 0268-72-2781 FAX 0268-61-4010 E-mail keijinfukushi@azarean.jp

ホームページ <http://www.azarean.jp>

イベント情報や、通信を読まれてのご意見、ご感想をお寄せください。次号は2014年8月1日の発行です。